

## ー透析支援システム開発の試みと運用の実際ー

石田秀岐 関口博行 林高志<sup>1)</sup> 萩原隆二<sup>3)</sup> 高橋正臣<sup>2)</sup> 大塚恭弘<sup>1)</sup> 山田秀樹<sup>4)</sup> 小野隆<sup>3)</sup> 松尾英徳  
伊藤恭子 安藤哲郎<sup>4)</sup> 安藤義孝<sup>4)</sup>

平成日高クリニック 日高リハビリテーション病院<sup>1)</sup> 富岡クリニック<sup>2)</sup> 白根クリニック<sup>3)</sup> 日高病院<sup>4)</sup>

### 【目的】

当院では透析患者の情報管理、透析スタッフへの業務支援、業務の効率化、他部署への情報提供を目的として2003年より透析支援システムを開発し運用してきた。今回透析支援システム運用の実際と院内外システムとの連携について報告する。

### 【透析支援システム開発会社】

『株式会社プロシード、株式会社データビジネスサプライ』対応 OS : WINDOWS

### 【院内医療システムの概要】

『カルテ』NEC社製電子カルテ HS-MIRAI 『放射線システム』東芝社製ネットワーク、フジフィルム社製デジタル撮影機 『検査システム』BMLシステム 『医事会計システム』NEC社製IBAS

### 【透析支援システムの概要】

1. 透析患者情報（基本情報、体重、血圧、看護記録、各種履歴等）は全て透析支援システムに集中管理し透析記録への自動転記を実施、長期予定の管理を行うため患者個々の予定管理カレンダーを採用。
2. 情報はRAIDシステムを有した専用サーバーに集積、情報入出力端末は無線LANによるノートPCと固定有線端末を採用。
3. 電子カルテよりカルテ情報を受け取り、医師所見、オーダー情報、入退院情報、薬剤情報、手術情報等を透析支援システムに反映。
4. 放射線システムとの連携により胸部写真を患者別に自動デジタル保管、CTR測定機能を用いて測定した結果は患者個々のCTR履歴へ自動で格納される、またDICOM, JPEG形式で別保管可能。
5. 検査システムとの連携により血液検査はグループ別一括オーダーを実施、結果は紙検査結果表、CSV、EXCEL形式での抽出が可能。
6. 院内他部署への情報提供として基本情報、医師看護師記録、病名、薬剤履歴、胸部レントゲン画像のみを表示する別ソフト（透析支援ビュー）を204ヵ所全ての電子カルテ端末で利用可能であり透析患者情報提供ツールとしている。
7. 全ての情報はCSV形式での抽出が可能、EXCEL、ACCESS、FileMaker、StatViewなどのソフトで利用が可能であり、透析患者に関する情報分析や統計が簡便に行える。
8. システム開発会社が高崎市にありエラー時の対応やシステム変更事例に素早く対応できる。

### 【まとめ】

透析医療は入院や外来患者に実施される医療と違い、多人数のグループに対し独自の医療形態をとるため電子カルテを中心としたシステムでは処理不可能なケースが多い。そこで当院では透析医療に特化し、なおかつ他システムとの連携を強化したシステムを開発し日常業務を行っている。今後は透析医療の分野でも今以上のIT化が進むと思われるが、最も有用な透析システムは透析医療の現場の人々の使い勝手が良く、かつ個々の施設の状況に応じたシステムであると思われる。